

鹿沼市認定

## 鹿沼の名匠

「ものづくりのまち鹿沼」を熟練の技で牽引する“鹿沼の名匠”。  
鹿沼の産業や文化の振興を担うその技と心意気をご紹介します。

vol.23



### 足袋製作

大和屋足袋店

やまと しげる  
大和 恵さん(仲町)

#### プロフィール

昭和23年、仲町生まれ。  
16歳で職人として働き始め、26歳で父の跡を継ぎ3代目に。栃木県内唯一の手縫いの足袋職人として現役で活躍中である。

#### 地

下足袋や和装用の白足袋の製作を専門に、明治末期に創業した「大和屋足袋店」。同店の3代目である大和恵さんは、この度「鹿沼秋まつりなど地域の文化を支えている」ことなどが評価され、現役では20人目の「鹿沼の名匠」に認定されました。

#### 足

袋は足の甲を中心に2股に分かれており、親指とそれ以外の4本指をそれぞれに入れる日本の伝統的な履物です。地下足袋は、足の裏にゴム底がつき、つま先に力が入りやすく、足場の悪い条件で作業する際に適しています。また、白足袋は和装の際に用いられることが多く、「鹿沼秋まつり」



### 市民俳壇

筒鳥や樹冠に奥社現るる

坂田山四丁目 佐藤 宣明

秘境の湯空の高みを夏燕

万町 海原ゆう子

古都すべて見下ろして夏將軍塚

松原 伊東 康則

また母の話にもどる走馬灯

栄町一丁目 中荒井弘美

世の憂さも知らず無花果熟れている

榎木町 上野佐喜子

曾祖父のとなりに子の名墓あらう

深 程 川津 明子

空き地にて静かに揺れる吾亦紅

下材木町 中島 成子

初秋の声に閉めたる掛障子

西茂呂 北方 清

### 市民歌壇

花枝を流れに翳す合歡あむぎに触れ重ねし夏をたぐり寄せたり  
入栗野 神山 和子

純白の葵の花が夏空の青に溶けゆく静かな朝に  
西茂呂四丁目 太田 孝子

風蘭が今年見事に花つけてはかなき風に香りを残す  
口栗野 齊藤 悦子



- 1 文規による採寸
- 2 型取り
- 3 ミシンでの縫い合わせ  
(ミシンは、先々代から受け継ぐ100年もの)
- 4 こはぜやゴム底などのパーツの手縫い



「大」にも使用されています。「自分  
が作ったものを履いて、お祭りを  
楽しんでもらえれば」と大和さん  
は語ります。

和屋足袋店では、デニム生地  
や、唐草模様など、バリエー  
ションに富んだ地下足袋や、花柄な  
ど可愛らしいデザインで、靴下のよ  
うに普段履きができる足袋も作っ  
ています。大工や建具屋などの職人の  
数が減少し、足袋の需要も減って  
いる中、時代の変化に寄り添った足袋  
作りを心掛けています。

**製** 作は、購入者の足のサイズを  
測る採寸から始まります。採  
寸には、一文銭が由来という専用  
の定規「文規もんぎ」を使います。採寸  
の後、型紙を作り、その形に沿っ  
て生地を裁断します。裁断された  
生地をミシンで縫い合わせ、その  
後は手で縫い進めていきます。「つ  
ま先は丸みをつける必要があります、  
難しい工程」と話しながらも、等間  
隔に縫い込んでいく大和さんの技  
術には驚きます。

**現** 在、栃木県で手縫いの足袋職  
人は大和さん一人。全工程を  
一人で行うため、一日に作れるの  
は二、三足ほど。お客さんに「履  
き心地が良かった」と言ってもら  
い、また店を訪れてもらえたら嬉  
しいと目を細めます。

市民川柳

有難い平和と自由終戦日  
下奈良部町 小野口 博

決断と実行もまた検討し  
上日向 畠山 茂

大荷物病院土産帰りけり  
中栗野 大塚 初江

戦後苦を生きた後期の底力  
上殿町 小林 義雄

大リーグゴルフ我が家に時差がある  
板荷 島田 ふみ

賢治泣く夏の暑さは避けるのみ  
酒野谷 杉山 進

蚊でさえも刺す気力ないこの酷暑  
御成橋町一丁目 金子 直美

戦争と平和見てきた日章旗  
加園 池田 大

ミンミンと蝉の声にて起こされし季節限定の目覚  
し時計 西沢町 安達 和子

暑き日の小川に群れる小魚は水面を跳ねて銀に煌  
めく 万町 中又 令子

友作の黒くて重いこのスイカ名前は「伝助」上上の  
味 東町三丁目 松永 治子

久々に実家たずねる盃蘭盆会兄の自慢のさつきは  
緑 睦町 高村 光夫

穂のたるる稲田を渡る風涼し友と窓辺にしばしを  
憩う 茂呂 植野 トク

白石 洋選

※選出の際に、選者による加筆・修正が入る場合があります。

## 我が家のアイドル募集

- 対象 1歳を迎える市内在住のお子さん
- 締切 1歳の誕生日まで
- 申し込みに必要なもの
  - ①お子さんの写真（郵送・持参：裏面に記名、メール：5MB以内）  
※頭からあごまでが写り、顔の周りに余裕があるもの
  - ②お子さんの名前・性別・誕生日、住所、電話番号、保護者氏名
- 申込方法 郵送・メール・広報広聴係（市役所3階）へ直接持参

〒322-8601 今宮町1688-1  
 広報広聴係「我が家のアイドル係」  
 メール koho@city.kanuma.lg.jp

右のQRコード  
 からもメール送  
 信可能



# 市民のひろば

## 我が家の アイドル



1歳を迎えたお子さんを紹介します。  
 ※4月19日～5月4日生掲載



府中町  
 五月女 乙葉ちゃん  
 (R3.4.19生)



泉町  
 島野 陽翔くん  
 (R3.4.20生)



上奈良部町  
 大貫 朔太郎くん  
 (R3.4.21生)



千渡  
 中嶋 彩ちゃん  
 (R3.4.23生)



下日向  
 大島 伊織くん  
 (R3.4.27生)



縦山町  
 石川 凜ちゃん  
 (R3.4.30生)



鳥居跡町  
 大貫 結珠葉ちゃん  
 (R3.4.27生)



千渡  
 太田 凜ちゃん  
 (R3.4.29生)



貝島町  
 長崎 廉采くん  
 (R3.5.2生)



東町1丁目  
 阿久津 結音くん  
 (R3.5.4生)



## 100歳万歳!

おめでとうございます。



下田町2丁目 高山 シゲさん  
 (T11.7.20)



下日向 生井 敏雄さん  
 (T11.7.24)



## いちご一会とちぎ国体・大会の炬火誕生 — 鹿沼市炬火イベント —

8月20日、TKCいちごアリーナで、いちご一会とちぎ国体・大会において灯される火を採火するイベントが実施されました。

第1部では記念事業として、「かぬまふるさと大使」である平野早矢香氏や、バレーボール女子の元日本代表・栗原恵氏を招いたトークショーや体験教室が行われました。

また、第2部では市内小中学生がマイギリ式火起こし器を使って火を採り、炬火台に「かぬまの火」を灯しました。

## 中学生たち、平和への思いを新たに — 広島平和記念式典派遣団 報告会 —

広島平和記念式典派遣団からの報告会が、8月23日に御殿山会館で開催されました。

派遣された生徒から、「被爆者の方に聞いた実体験は想像もできないほど悲惨だった」と報告。「戦争は私たちの日常を一瞬にして奪ってしまう、とても恐ろしいものだ」と改めて感じた」と、派遣事業を通して感じた戦争の悲惨さと平和の尊さについての思いが述べられました。



## ウクライナに思いをはせる上映会 — ウクライナ支援「ひまわり」チャリティー上映会 —

8月27日、映画「ひまわり」が市民文化センターにて上映されました。「ひまわり」は、第二次世界大戦で引き裂かれた男女の悲しい愛を描き、ウクライナのヘルソンで撮影されたひまわり畑の映像が印象的な作品です。今年2月末に始まったロシアによるウクライナ侵攻を受け、日本各地で緊急上映されています。

ウクライナ支援のため、会場に設置された募金箱に足を止める人たちの姿が見られました。



## 新たな「障子堀」発見 — 鹿沼城跡発掘調査現地説明会 —

新庁舎整備に伴う鹿沼城跡の発掘調査の成果を報告する現地説明会が、9月3日・4日に開催されました。発見された「障子堀」は、敵兵を足止めする効果があり、戦国時代の小田原北条氏領内の城に多く見られるものです。

参加者たちは、興味深そうに見入り、堀跡を写真に収めるなど、鹿沼の歴史の一端に触れる催しとなりました。

